JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
城西国際大学Sports
発行者:〒283-8555 千葉県東金市求名1番地　城西国際大学
夏季号
2018年7月
vol.5

欧州遠征

〝世界〟を知り〝美〟に触れる

欧州トップアマチュアのチームと親善試合を行ったJIUサッカー部

ＪＩＵアスリートの額に汗がほとばしる。
首都圏の大学スポーツのレベルは高い。千葉県下の予選を勝ち抜き、関東へ、さらに全国大会へ、の道は険しい。各運動部は、それを乗り越え、遠くに見え隠れする「栄冠」を目指す。
「夏に鍛える」――選手たちにエールを送ろう。

「スポーツにエールを」

鹿間（しかま） 陸郎（りくろう）
東金市長

学生時代から30歳になるまでソフト・テニスに打ち込んでいました。千葉県立成東高校では、2年生、3年生時にインターハイ（高校総体）に出場しました。大学時代（青山学院大学）も体育会のソフト・テニス部に入り、国民体育大会にも出場しました。千葉市役所に勤務していた時の25歳ごろには、千葉県の大会で3連覇を果たし、東日本選手権でベスト8まで進んだこともありました。

30歳になってテニスラケットを置き、代わりにゴルフのクラブを振るようになりました。スポーツは観戦するのも好きで、プロ野球の千葉ロッテマリーンズ、サッカーのジェフユナイテッド千葉の大ファンです。

ＪＩＵのスポーツは、プロ野球のジャイアンツの宇佐見選手を輩出するなどかなりのレベルだと思います。そうしたＪＩＵとスポーツ交流の機会を増やして地域活性化につなげたいですね。各運動部の選手たちが、市内の小学・中学校と交流を盛んにし、指導してくれたら、と願っています。例えば、サッカーや野球など「1日教室」を開けたら、と思います。ＪＩＵの選手の指導を受けた地元・東金の子供らから五輪メダリストが生まれるのが夢です。

【略歴】1950年生まれ、東金市出身、千葉市役所職員などを経て今年4月から東金市長。

現地アマチュア最高峰の選手たちと連戦　サッカー部

ロッテルダム市長を表敬訪問
川尻選手が即興で英語スピーチ

福井哲監督率いるサッカー部は、今春、オランダを拠点にベルギーを回り、欧州のアマチュアのトップレベルのチームと親善試合を行った。3月17日から26日までの日程で、選手23人とスタッフ3人が参加した。オランダで計5試合、ベルギーで1試合、と連日のように試合をこなした。

福井監督は、日本サッカー協会技術委員・ナショナルトレセンコーチなどを歴任した。前職のFC東京では、育成部長などをつとめ、選手、コーチの育成に手腕を発揮したサッカーの卓越した理論家である。

その目から見た欧州サッカー、遊征の成果や意義などを聞いた。福井監督は「オランダの定評ある組織的なサッカーを学ばせかった。選手の多くは海外に出た経験がないこともあり、サッカーを通じて世界を知ってもらいたかった」と話す。

親善試合の相手は、プロ選手の「卵」を含むアマチュアの最高峰の選手ばかりを集めたチーム。零下5度という過酷な気象条件のもとで、選手は踏ん張り、ベルギーのチームとは、接戦の末、2対1で勝った。

サッカー以外でも収穫があった。現地の美術館に赴き、「ヨーロッパの美」を鑑賞。また、全員、ユニフォームからスーツ、ネクタイ姿に着替えてロッテルダム市（オランダ）の市長を表敬訪問。川尻龍司選手が、市長の歓迎のあいさつのあとで、英語でスピーチを行った。市長のあいさつの内容を織り込んだ即興のスピーチで、市長らも感心していたという。

帰国後、東金キャンパスの「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK」に戻った選手たち。「ボールスピードが増している。ボールを蹴る音が違ってきた」（福井監督）。また、交流したオランダのチームから普通のボールよりもやや大きく、重たい「ダービースター」＝**写真**＝が20個、友好のプレゼントとして送られてきた。選手は、「あのときの感覚を忘れないように」といまも「ダービースター」を蹴りあっている。

帰国後も精力的に練習を行う選手たち

ロッテルダムで市長を表敬訪問した福井監督と選手たち

■プロフィール
部　長：松田世治
監　督：福井　哲
コーチ：大場賢治
コーチ：村井慎二
GKコーチ：岸川義隆
外部コーチ：宮谷和幸
主　将：高須雄大（埼玉県立浦和北・浦和レッズユース）
副主将：前濱和道（沖縄県立前原）
副主将：平野皓巳（長崎県・海星）
副主将：峰　泰斗（佐賀県立佐賀東）
副主将：佐々木良（佐賀県立鳥栖商業・サガン鳥栖U-18）

記者募集
記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験が長い職員が取材、書き方を基本から指導します。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生も募集しています。
連絡はこちらまで ▶03・6238・1241
学校法人城西大学法人本部
広報センター

全日本学生優勝大会に出場

柔道部

関東大会
土屋主将が技術優秀選手賞を受賞

第一目標だった5月の関東学生柔道優勝大会では、男子2部団体戦（7人制）は、1回戦がシード、2回戦、3回戦は、それぞれ高崎経済大学、山梨大学を破った。準決勝の上武大学には、1対4で敗れた。ここで勝つ決勝に進めば、2部の上位2校が全日本学生柔道優勝大会の出場権を得られるのだった。過去に3回、この「インカレ」に出場している実績があるが、今回、惜しくも逃した。それでも主将の土屋皓仰（福祉総合学部4年）が技術優秀選手賞を受賞した。

「インカレ」の8年連続出場を目指す女子（3人制）は、準決勝で、昨年インカレ3位の強豪・埼玉大学と当たった。各選手とも優勢に試合を進めていたが、際どい判定も影響し、惜敗した。しかし、金田優理子（経営情報4年）が技術優秀選手賞を受賞するとともにチームは、6月23日に東京・日本武道館で開催の全日本学生柔道優勝大会に出場＝**写真**。

秋山修一監督は「男子は故障者が多かったにも関わらず良くここまで頑張ったと思う。女子は、さらに上に行ける力があるため、全日本で勝負する」と話す。

6月23日の日本武道館。女子が27回目を迎えた全日本学生柔道優勝大会の団体戦（3人制）が行われた。JIUの初戦の相手は、福岡教育大。高杉美咲（経営情報学部2年）、金田、久保が出場した。しかし、相手は100キロを超える選手もおり、ねじ伏せられて敗退した。

試合後のミーティングで秋山監督は「全日本の畳の重さを感じてほしい。出場できなかった部員の思いも託されているのだ。これからも部一丸になって試合に臨もう」と話していた。

ベトナム柔道交流
得意の英語〝決め手〟に派遣選手

久保（くぼ） 麻衣香（まいか） 選手
――国際人文学部国際交流学科4年（長崎明誠卒）

全日本柔道連盟（全柔連）などの共同事業である「21世紀東アジア青少年大交流計画2017」によるベトナム柔道交流に参加した。

久保選手は、城西国際大学に入学後、カリフォルニア大学リバーサイド校に留学した。英語が得意で、今回の柔道交流の派遣選手は、その語学力が「決め手」となったようだ。

柔道2段。

全柔連は、国際的な柔道普及のため、ベトナムなどに柔道用の畳を送るなどの支援をしている。今回、ベトナム政府から「学生の柔道交流をしてほしい」との要望があり、全国から久保選手ら男女15人が選ばれ、3月5日から10日間にわたり、首都ハノイと中部のニャチャンに派遣された＝**写真**。ハノイでは、ベトナムのナショナルチームと練習。日本の柔道選手が行うサーキットトレーニングなどを披露した。ニャチャンでは、少数民族の柔道クラブを指導したという。

久保選手は「高校生や子供たちとも交流したが、みんな積極的で、楽しそうに柔道に取り組んでいたのが印象的でした」と話す。

JUから①　創意工夫で「日本一」を目指す
――附属城西高校陸上競技部

城西大学附属城西高校（東京都豊島区）の陸上競技部は、400メートルで日本歴代2位の記録を持つシドニー五輪代表の組幸（ゆきと）が陸上競技部の顧問に加え、いずれも長距離とマラソンで大輝かしい長編を残してきた東井謙二郎氏と渋井陽子さんがコーチを務める。

都心に近い学校のため校庭は狭く、短距離とハードル陣の学校での週3回の練習はテニスコート一面分しかなく、長距離陣はロード中心。跳躍と投てき陣は日本大学のグランドを借りて練習している。塚本選手は「月の世界ジュニアでパレキーム先輩と走りたい。インターハイでは100、200、リレーの3冠を取りたい」と抱負。山村教諭は「各人なりの練習方法があっていい。環境で陸上競技をするのではなく、工夫と考え方で競技をするのが城西陸上部。厳しく楽しい雰囲気の中で高みを目指したい」と話す。

「前例や常識、既成概念に縛られず、制約のある環境の中で創意工夫で陸上競技に取り組む」（山村教諭）ほか、国体300メートルで入賞経験のある砂子愛教諭、2度の五輪出場を誇る110メートルハードルの第一人者だった内藤真人教諭の顧問陣に加え、いずれも長距離とマラソンで大輝かしい長編を残してきた東井謙二郎氏と渋井陽子さんがコーチを務める。

都心に近い学校のため校庭は狭く、短距離とハードル陣の学校での週3回の練習はテニスコート一面分しかなく、長距離陣はロード中心。跳躍と投てき陣は日本大学のグランドを借りて練習している。塚本選手は「月の世界ジュニアでパレキーム先輩と走りたい。インターハイでは100、200、リレーの3冠を取りたい」と抱負。山村教諭は「各人なりの練習方法があっていい。環境で陸上競技をするのではなく、工夫と考え方で競技をするのが城西陸上部。厳しく楽しい雰囲気の中で高みを目指したい」と話す。

大会ボランティア募集中
ラグビーW杯会場で〝日本の顔〟に
募集期間は7月18日まで

2019年のラグビーワールドカップ日本大会の大会ボランティア（チームノーサイド）の募集が始まった。試合が行われる全国12都市で合計約1万人を募集。大会会場などで、日本の顔〟として活躍することが期待されている。埼玉県でも熊谷ラグビー場が会場となっていることから、県ラグビーワールドカップ2019大会課の担当者が3月14日に城西大学を訪れて参加を要請。学生課もボランティアの経験は国際交流や就職活動にも役立つ。ポスターを掲示などで募集に協力したい」と応えた。

ボランティアの条件は2019年3月末時点で18歳以上で、1日当たり最長8時間のボランティア活動に参加できるなら。募集期間は7月18日まで。8～12月に開催都市で実施される面接に参加する必要がある。試合会場での運営補助や観客の誘導・案内、来場者サービスなどにあたる。

アジアで初開催となる大会は日本など20チームが参加して来年9月から11月にかけて開かれ、熊谷ラグビー場ではアルゼンチン対アメリカなど3試合が行われる。

医務室から　「健康の話」――飲酒について
医務室

大学生になったら酒が飲めるは、間違いです！

日本では、20歳になるまでは飲酒を法律で禁じています。未成年者は、たとえ先輩に進められても「飲まなくてもいい」と法律で守られています。従って、未成年だと知りながら飲酒を進めることは、「違法」です。

なぜ、未成年の飲酒はだめなのでしょうか

①法律で禁じられている
②飲酒可能な限度がわからず、急性アルコール中毒になりやすい
③成人に比べ、体や脳ほど悪影響が大きい
④学業に集中できなくなる
⑤低年齢で飲酒を始めると依存症になりやすい
⑥薬物依存に入りやすい

などが主な理由です。

成人に達したからといって毎日の多量飲酒は健康を害し、学業継続が難しくなります。もちろん適度な飲酒は、気持ちをほぐす効果があり、コミュニケーションアップにつながります。

酔いの程度
❶ほろ酔い：気持ちがほぐれる
❷陶酔　：著しい興奮　足元がふらついている
❸泥酔　：要介護状態
❹昏睡　：何をしても起きない

❷の状態になったら飲むのを止める。場合によっては、一人にしないで状態を観察（吐しゃ物で窒息しないよう横に向ける）。呼びかけに反応が鈍いようなら、医療機関へ。

本学の学生もアルコールによる緊急搬送は毎年起きています。幸い生命に及ぶ事例は起きていませんが、「こわい飲み会」にならないようくれぐれも注意しましょう。

JIUから②　創立100周年記念祝賀会――城西学園

学校法人城西大学の前身である学校法人城西学園（東京都豊島区）の創立100周年記念祝賀会が6月18日、同区のホテルで盛大に行われた。祝賀会には、城西学園の新藤博明理事長や斉藤栄・城西大学附属城西中学・高等学校長、本学の上原明理事長、白幡晶・城西大学学長、杉林堅次・城西国際大学学長ら関係者約350人が出席、一世紀にわたる学園の歩みを振り返り、今後の学園の発展を祈った。

城西学園は1918（大正7）年、中島久万吉男爵によって創立された城西実務学校が始まりで、1926（大正15）年に城西学園と改組し中学部を開校。現在、城西中学・高等学校と城西放射線技術専門学校を運営している。城西大学は1965年、大蔵大臣などを歴任した水田三喜男先生と城西学園の理事長、学園長を務めた新藤富五郎氏の主導によって創立された。

祝賀会では、新藤博明理事長と斉藤栄校長の挨拶に続き、高野之夫・豊島区長や本学の上原理事長らが祝辞を述べた。上原理事長は学園創立時の時代に触れ、「生徒自身が自分で考えて自分の個性を伸ばし、想像を発展させ物事に果敢にチャレンジする大正自由教育の運動が広がっていた」と語った。そのうえで、「幾多の経営的な難問と多くの難関を乗り越えてこられた諸先生、諸先輩の皆さまに敬意と感謝の気持ちを申し上げたい」と語り、「第二の100年の初年度に当たり、大正自由教育ならぬ平成自由教育の精神を新たに確立しなければならない。私ども学校法人城西大学は、城西大学、城西国際大学、城西短期大学ともども城西学園の皆さまと一緒に努力したいと考えております」と結んだ。

JIUグッズをお試しあれ！

本学が考案し、販売している「ＪＩＵグッズ」は、たくさんあります。大学祭などの行事に合わせて販売所を設けております。

写真はそのうちの一部で、左から「ブルガリアンウォーター」「ローズクリーム」「リップバーム」。この3点は、薬学が専門の杉林堅次学長の研究開発商品です。「リップバーム」は、文房具の筆ペン容器からヒントを得て、化粧品容器を作りました。

問い合わせは、総務課（0475―55―8800）へ。

〈編集〉学校法人城西大学　広報センター　〈発行〉城西国際大学　総務課

女子 内藤が全国大会出場決める 剣道部

「新たな決意を抱き稽古に取り組む」（今井監督）

女子の全国出場は2年ぶり6人目

5月19日、東京武道館（足立区）で、第50回関東女子学生剣道選手権大会が開催された。関東学連加盟の103大学から517名の選手が出場し「全国大会出場28枠」の争奪トーナメント戦が行われた。

女子剣道部からは9名が出場し、2度の強化合宿を経ての出場だったが、大会の雰囲気にのまれ力が発揮できず敗退した選手や、昨年の朝者を破るもあと一歩で「全国」を逃す惜しいケースも。全国の連盟の中でも激戦区である。その中にあって、内藤慶（福祉総合学部3年・八女高）は、苦戦を強いられながらも足を使った機動力を生かし、見事5人を破り、ベスト16入りを果たした。

内藤選手は7月7日、日本武道館で行われる第52回全日本女子学生剣道選手権大会に出場。女子部員の全国大会出場は、2年ぶり6人目だ。

一方、男子は、5月13日に日本武道館で開催された第64回関東学生剣道選手権大会に下田晃平（経営情報3年・高崎商高附）、鈴木隆介（同・東海大望洋）が出場するも2回戦で、田崎一成（同・2年・阿蘇中央）は初戦で敗退した。

男女とも次の目標は、9月の全日本学生剣道優勝大会（団体戦）。女子は6年連続出場の後、一昨年、4年ぶり7度目の出場を果たし、8度目を狙う。男子は、初出場をうかがっている。

監督の今井英雄さんは、姉妹校の城西大学の出身で、学生時代に全国大会に出場するなど剣道部員として活躍。いま留学生別科の事務長をするかたわら26年間剣道部を指導している。

今回の選手権大会を振り返り、今井監督は「私も選手も、結果から猛省することはもちろんのことだが、普段からの剣道（稽古）、生活態度（授業等）などへの取り組む姿勢の甘さが勝敗の結果へつながったと捉えなければ、勝敗だけの大学剣道で終わり、本来の目的である人間形成の道にはつながらない。女子剣道部は15年ほど前から強化し、全国から選手が集っているにも関わらずわずか1名の全国出場。全国屈指の激戦区（関東）での戦いだからと言い訳もできようが、一人一人が今大会の結果を真摯に受け止め、9月に行われる関東女子学生剣道優勝大会（団体戦・全国大会予選）の上位進出を明確な目標と定め、新たな決意を抱き稽古に取り組みたい」と語る。

熱心に稽古する剣道部の選手たち

◀稽古後、心静かに正座する内藤（手前中央）。剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である

稽古のあと選手たちは笑顔でガッツポーズ

■関東女子学生剣道選手権大会出場選手

五百蔵佳奈（経営情報4年・高知）	及川杏樹（経営情報2年・盛岡南）
長等日菜（経営情報3年・高知）	嶋　彩花（福祉総合2年・西陵）
折口　凛（経営情報3年・鎮西）	久原未来（福祉総合2年・三重総合）
内藤　慶（福祉総合3年・福岡）	宮腰夢希（経営情報1年・東奥義塾）
大橋智美（経営情報3年・聖光）	

■プロフィール

部　長：井上敏博（男子）、七井誠一郎（女子）
監　督：今井英雄
主将・男子：中川康一郎（阿蘇中央）
主将・女子：五百蔵佳奈（高知高）

秋の優勝を目指しチーム内競争

硬式野球部

投手陣の地力アップ、攻撃陣の再整備が急務

佐藤清監督は、春のリーグ戦を振り返り、また秋シーズンに向け、こう話す―。

部の目標は日本一を目指すことである。春のリーグ戦では、投手陣の経験不足、攻撃陣の不振と、攻守がかみあわず4勝7敗勝ち点2、4位の成績で終了した。秋季リーグ戦での巻き返しを目指し、投手陣の地力アップ、攻撃陣の再整備が急務である。

投手陣では、武笠達也（4年・花咲徳栄・経営情報）に次ぐ宮崎一希（2年・進修館・経営情報）、山本竜也（2年・御所実業・経営情報）、長井陸（3年・阪南大学・経営情報）、佐々木駿（2年・木更津総合・経営情報）のレベルアップ、中星也（2年・仙台育英学園・経営情報）の復帰が課題である。

攻撃陣では、佐藤陸雅（3年・作新学院・経営情報）、村上公康（2年・西条・経営情報）がレギュラーとして台頭。昨年からのレギュラーである湯浅翔太（4年・主将・花咲徳栄・経営情報）、八木馬（3年・聖志野・経営情報）、岸添有哉（3年・生浜・経営情報）の中心選手としての頑張りが最低条件である。

秋の優勝を目指すが簡単ではない。夏場の猛練習が重要であり下級生が力をつけている中での激しいチーム内競争が予想される。勝ち残った者が、代表としてリーグ戦メンバーとなる。

チーム内競争で勝ち残った選手がリーグ戦メンバーに

■プロフィール

部　長：七井誠一郎（経営情報学部教授）
監　督：佐藤　清
コーチ：田中成男
　　皆川慎吾
主　将：湯浅翔太（花咲徳栄）

支えに

城西国際大学アパートオーナー会会長・硬式野球部学生寮オーナー 古川政敏さん（74）

この食堂で〝大学日本一〟祝勝会を

ちょうど10年前に硬式野球部寮ができた。いま4力所の野球部寮を管理する。次男の薫さん（46）とともに寮に隣接する食堂も切り回し、選手らに朝食、夕食を提供している。パートの女性4人が料理を作る。ご飯とみそ汁はお替り自由。選手たちの食欲は旺盛で、夕食では、約30°。のコメが必要な時もある。選手たちの好物は、カレーライス、牛丼、とんかつなどだという。

こんなこともあった。東日本大震災（2011年3月）の日。遠征中の硬式野球部員らが乗った車は、帰路、大洗滞に巻き込まれ、寮に到着したのは深夜の11時ごろ。当時、一帯は地震の影響による停電が長引き、外に駐車してある車のライトをつけて食堂を明るくしたり、ランタンを持ち込み、腹ペコ・ヘトヘトの選手らに、何とか食事を提供し食べさせたという。

毎年、春には歓迎会、秋には試合に向けての壮行会を食堂で開く。城西国際大学協力会、父母後援会、地域や東金商工会議所の方を招いてのバーベキュー。古川さん父子、そして硬式野球部関係者の願いは、「大学日本一」になって、この食堂で大祝勝会を開くことである。

古川さん（右）と次男の薫さん

輝く卒業生

「頼られる精神 保健相談員に」

猪野浩史さん（2018年3月、福祉総合学部福祉総合学科卒業）
――安房健康福祉センター地域保健課　精神保健福祉相談員

志学館高校（千葉県木更津市）を卒業後、JIUとは違う、ほかの大学に進んだが、中退。塾講師などをつとめたが、「車いす生活の祖母を父が介護している姿を見ていて、福祉の道に進みたいと思うようになった」と一念発起して2014年にJIUに入学した。福祉総合学部で精神医学論、社会保障論などを学び、精神保健福祉士や社会福祉士の国家試験を受け資格を取ろうと努力した。昨年秋、千葉県の専門職公務員の試験を受け、合格。国家試験を今年2月に合格し、同4月から安房健康福祉センター（館山市）に勤務する。

館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町が管轄だ。精神的悩みを抱える家庭から相談の電話がかかってくる。センターの嘱託の医師ら専門家を紹介する。悩みを抱えている家庭を訪問することもある。また隣接する館山警察署から「トラブルに巻き込まれたり、保護された方が精神的な問題を抱えていそうなので、相談に乗ってほしい」などの依頼も。

相談員になって3力月。「わからないことだらけです。地域保健課の上司や先輩から、毎日たくさんのことを学んでいます」

JIUを学中は、台湾、アイルランドの短期研修を経験した。提携校の米国・カリフォルニア大学リバーサイド校にも。卒業論文は「イタリアの精神保健福祉」。イタリアが精神保健福祉に関して、もっとも進んでいる、という。

安房で多くの経験を積み、将来は「頼られる精神保健相談員になりたい」と話す。

わたしと学生スポーツ

近隣校舎の明かりを頼りに練習

松平康秀　紀尾井町キャンパス教学事務室事務長

2期生として1993年人文学部（現国際人文学部）・国際文化学科に入学しました。すでに1期生がアメリカンフットボール部（アメフト部）を創部していて、私は入学後すぐに入部しました。人数が少なかったのでオフェンスとディフェンス両方のポジションを担当し、はじめはRBとLB、卒業時にはOLとLBを任されました。また3年、4年は主将を務め、部の運営にも携わりました。

初めてアメフトに接したのは高校2年生（茨城・常総学院）の時です。姉からチケットをもらい、友人と2人で観戦した本場・米国の大学チームの強豪同士の試合（コカコーラボウル）。そのカッコよさと迫力に魅了され、友人と「大学に入ったらアメフト部に入ってプレーしようぜ」と誓い合いました。

入学時のアメフト部は、1期生が10名程で、わたしたち3期生も12名入部しました。当時はナイター設備がなく、学生課にお願いしグランドに隣接した校舎の電気を全て点けさせてもらい、その明かりを頼りに練習をしたことを思い出します。指導者もおらず、グランドもサッカー部や女子ラクロス部と一緒でした。

現状に満足しかねなかった私は部員一人を伴って、防具だけを携えて千葉県内の社会人チームの練習に、予告・約束なく「飛び入り」で参加しました。強引でしたが、これが縁でネットワークが広がり、千葉商大のOBが週末になると指導に来ていただくようになりました。

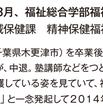
2003年にアメフト部は部員が減少し存続不能になりました。自分が所属していた団体がなくなったのは残念でしたが、残った部員を自分が所属する社会人チームに参加させ、最後までアメフト部に携わりました。

アメフトの魅力は多彩な戦術と迫力だと思います。知れば知るほど奥が深いスポーツ。全米No.1を決めるスーパーボウルは、今でも自分の関心事の一つです。

Activity 文化・芸術・学術の話題ピックアップ

防犯パトロール実施

柔道部、硬式野球部の計20人参加



城西国際大学では、本部キャンパスがある東金市の求名駅周辺で学生、職員による防犯パトロールを行っている＝**写真**。今学期は4月24日から7月6日までの火曜日、金曜日に隔週で実施した。

柔道部、硬式野球部のメンバー計20人が参加。18時半から約1時間にわたり、防犯灯や懐中電灯、拍子木などを用意し、住宅街をパトロールしている。

東金市内では、車上荒らしや自転車盗難などが多発している。大学のパトロールにより、各種犯罪の被害防止と地域の安全に貢献することが狙いだ。

日韓 W 杯国際交流の思い継ぐ
―― 高円宮殿下記念ギャラリー

東金キャンパスの「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK（高円宮殿下記念スポーツパーク）内に「高円宮殿下記念ギャラリー」がある。

高円宮殿下が開催運営に尽くされた「FIFA日韓ワールドカップ サッカー大会」（2002年）ゆかりの貴重な品々を展示している＝**写真**。国際交流における人と人との友好の大切さを説かれてきた高円宮殿下の思いを継承する場だ。今年は、ワールドカップ サッカー大会開催の年。地域住民の方も見学できるように開放されている。

【開館時間】10:00～16:00　**【休館日】**日曜日・祝日・本学休校日
※見学希望の方は、事前に☎**0475・55・8800**まで連絡ください。

鴨川コーナー　軟式野球部

春季リーグ1位で代表決定戦出場

決勝で惜敗も「今秋が最も大事」（河上監督）

昨年の東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦で、3年ぶり2度目の優勝を果たし、第38回東日本大学軟式野球選手権大会に出場した。河上國男監督は、その実績を振り返りながら、今春、「投手力が厚く、有力新人も入ってきた。前チームより戦力アップしている。いまはで一番、力がある、と思う」と言い切っていた。

それが試された今年の春季リーグ戦は6校が参加。観光学部軟式野球部は、4勝一敗で1位となり、東関東春季リーグ戦代表決定戦に出場した＝**写真**。ここで優勝すれば、全日本選手権大会に出場できる。春季リーグ戦で1位となったため、決定戦には地区決勝からの出場である。その国際武道大戦では、左腕の金子右海（3年・三条商業出身）が投げ抜き、4―1で快勝。

続く決勝戦は、昨年同様、帝京大学が相手だった。初回、観光学部軟式野球部は、重松論（2年・今治北）、吉岡の岡崎大地（3年・宇和島剛）のヒットと松永誠人（2年・修徳）の三塁打で3点を奪い、勝ちムードが漂った。

しかし、2回、「悪夢」のような展開になった。エラー、四球が重なり、そこから3本のヒットをからまされ、一挙5点を献上してしまった。右のエース、黒川万尋（3年・松山商業）は、その後、立ち直り、ほぼ完ぺきに相手打線を抑えたが、結局、3―5で敗退した。

チームは、秋の東日本大学軟式野球選手権大会を目標に練習に励むが、心強いのは、投手陣は、金子、黒川とともに久保田虎佐（2年・松山商業）が成長し、3本柱が揃ったことだ。

野手陣では岡崎、重松、松永の中心選手に加え、全体がレベルアップをしている。田坂喜平（今治北）を筆頭に新人も定位置を狙っている。

観光学部軟式野球部は2010年4月に創部された。以来、指揮をとる河上監督は「今秋が最も大事なシーズンになると感じている。投手陣が揃い、試合が楽しみだ。夏の合宿、秋の大会、ここで勝負をかけたい」と話す。

サーフィン部 古田 連盟の強化指定選手に

昨年のポイントランキング1位 〝世界の海〟も経験

日本サーフィン連盟による「2018強化指定選手」に選ばれた。3月には82人の強化指定選手が千葉県鴨川市に集まり強化合宿が行われた。

サーフィンを始めたのは、小学校1年生の時だ。週末、サーフィンが得意な父に連れられ、千葉・君津の自宅から鴨川の海に通った。2年生の時から大会に出場し、上総高校時代まで通学、夏休みを利用し「千葉の海」で波に乗った。もっぱら父が指導役で、上手なサーフィーファーからもアドバイスを受けた。

「海外で大会に出たりするためには英語力が必要となる」と思い、グローバル教育が盛んな城西国際大学に入学した。いまは、五条会場になる上総一宮の海岸で、練習する。授業優先で週末のほかは、週2回、2時間を練習にあてる。

昨年秋に高知県で行われた、全日本選手権に並ぶ2大大会の一つである「アランドチャンピオンシップ」で1位に。この好成績から昨年のスコアを示す「ポイントランキング」でも1位となり、強化指定選手に選ばれた。オーストラリアやバリ島（インドネシア）など、「世界の海」も経験した。

強化指定選手を対象にした選考会で、2年後の東京五輪出場する代表選手が決まるという。活躍を期待したい。

古田 龍之助選手
――国際人文学部国際交流学科2年（長崎明誠卒）

女子駅伝部 「杜の都」快走を再び

「自分で研究し、自分を見つめる選手に」（大塚監督）

大塚正美・経営学部教授が監督に復帰した女子駅伝部。部員数は1年生が各2人で計14人だ。大塚監督の指導で2002年に全日本大学女子駅伝に初出場して以来、10回連続出場を重ねた時代には選手は20人ほどいたという。

朝練習は、東金キャンパス周辺で行う。授業終了後の練習は、駅伝コースのアップ・ダウンやクアなどに対応するため、キャンパス近くの「農大の坂」や東金アリーナなどを舞台に走る。

そして週1回は、緑豊かなゴルフ場「新子葉カントリークラブ」を使わせていただいている＝**写真**。「自分で研究して結果を残せ。スポーツだけの人間になってほしくない」が大塚監督の指導方針。さらに大塚監督は「自分を見つめる選手になってほしい。自分の弱さを知れば、それを強くすればいい。ようやく、選手にそういう意識が出てきた。それだけ『神びしろ』があるということです」と言う。

最大の目標は、9月に仙台で行われる関東大学女子駅伝対戦選手権大会を含め上位の9チームほどが全日本大学女子駅伝に出場できる。女子駅伝部員が再び「杜の都・仙台」で快走する日を早く見たいものだ。

■大塚正美監督【経歴】
1960年8月生まれ。茨城県立水戸工業高校時代、全国高校駅伝大会に2回出場。1978年に日本体育大学に入学。1年生から4年生まで正月恒例の箱根駅伝に出場し、すべて区間賞を獲得した。1年の時に走った8区で区間新記録、4年の時は2区で区間新記録を樹立、この記録はそれぞれ15年間、13年間も破られなかった。現在、経営情報学部教授で「生涯スポーツ概論」「スポーツ社会学」などが専門。女子駅伝部は、全日本大学女子駅伝で最高で3位の座を占めた。2011年に監督を辞め、2017年に復帰した。

女子ソフトボール部 〝全国〟目指し選手層に厚み

春季リーグ戦は惜しくも準優勝

水田総合会場で練習に励む新チーム

5月の関東学生春季リーグ戦。2部（6校）で優勝するのが選手たちの目標だった。ここで実力を発揮できれば全日本大学選手権大会に出場、初勝利への道も開けてくる。

新島学園短大、文教大学、関東学園大学、筑波大学には、順当勝ちしたが、3試合目の順天堂大学には、惜しくも0対1で敗れた。結果は、4勝1敗の準優勝に終わった。続く試合は、関東学生選手権大会兼全日本学生選手権大会関東地区予選会だった。1、2試合は、それぞれ相模女子大に24対0、東京国際大学に5対4で勝った。しかし、続く姉妹校の城西大学との試合は、1対15で敗退、敗者復活戦でも白鷗大学に1対2で敗れ、「全国」への道は閉ざされた。

東金キャンパスなどにある水田記念球場。すでに新チームが発足した。部員は24人（うちマネージャー1人）。今春、入った新入生もすっかりチームに溶け込んだ。4年生は、高校時代に日本一を経験している。選手層に厚みがついた。

創部は2003年で、現在、部員は24人だ。指導するのは、経営情報学部の高橋光平准教授だ。2007年にJ-Uの教員となり、翌年からソフトボール部を任された。3年前の全日本大学選手権大会には3年ぶり2回目の出場を果たしている。

投手陣は、粟生裕衣（3年・千葉黎明）、小野琢菜奈（1年・千葉経済大学附属）らが軸だ。打撃陣は、主将の石井麻璃乃（3年・宇都宮文星女子）＝**写真**、加納七海（3年・江戸川）、瀬山聖奈（3年・東洋生活文化大学）らが中心だ。

高橋監督は「昨今、学生スポーツの真価が問われているので、今より更に学内や地域が誇れるチームを目指し、選手らとともにソフトボールを通じて人間として成長して、目標の全国大会出場したい」と話す。

■プロフィール

部　長：鳥野　大
（福祉総合学部理学療法学科教授）
監　督：高橋光平
コーチ：田邊敏広
主　将：石井麻璃乃